

ミカンベイビー合同会社では、誰もが安心して自分の人生を全うすることができる社会にするべく、年齢や性別、障害等の違いを越えて、多様な当事者たちとの共創事業を手がけています。

事例1. 真のインクルーシブな社会に向けた福祉コミュニティ「SFC-IFC」の運営

ミカンベイビー合同会社が提供する福祉コミュニティ型ラボ「SFC-IFC」では、障害の有無や年齢、属性を問わず多様な人々が参加しています。

「真のインクルーシブな社会創造」をスローガンに掲げ、YouTube等での映像発信や、体験型ミュージアム「障害の未来を考える文化祭」など、多彩なプロジェクトを展開しています。2026年2月現在、高校生から86歳まで50名を超える会員メンバーが所属し、それぞれの会員がプロジェクト運営やイベントの参加など、個々に合った形で活動に参加しています。

活動の一例として、毎年行われる合宿(会員内での任意参加)では、障害の有無や種別、年齢や性別にかかわらず、皆で温かい時間や場所を共有し、多様なアクティビティを通じて共生社会の意味を発見します。



写真(1)「合宿」の様子



写真(2)「障害の未来を考える文化祭」の様子

事例2. 「障害」とは何か。その意味や未来までも再考するワークショップ

「障害の未来を考えるゼミ」(通称“みかんゼミ”)では、決して一つの正解や枠組みに収まりきれない“障害”という概念を根本から問い直し、皆でその未来について対話しようというワークショップ。

「大人だから分かる」「当事者だから分かる」という内容ではなく、あらゆる人がフラットかつ真剣に、“障害”を通して未来や自らの価値観、はたまた人生そのものについて考えを巡らせることができるこのワークショップは、学校の授業はもちろん、福祉の現場の方や専門家、ビジネスパーソンからも評価をいただいています。

東京都の小学校では、6年生を対象に実施した際に以下のような声を頂戴しています。

- ・障害があることが必ずしも悪いこととは限らないということに気づいた。
- ・自分は障害者についてよく考えられていると思っていたが、実際はまだまだ知らないこともたくさんあることに気づき、どのような未来にしていけばよいかを考えたことが印象に残った。
- ・もしかしたら気づかぬうちに受け入れていない人がいるかもしれないと思った。
- ・私自身文字の読み書きが困難な発達性学習障害という知的障害(発達障害)を持っていて、外から見てわかる障害ではないためあまり理解を得づらい事により、悩むこともすごく多かったけれどスタッフの皆さんが明るく笑顔で対応してくださったおかげですごく楽しく過ごすことができました。このような機会を作ってください本当にありがとうございました。
- ・今回は障害についてより深く知ることができました。これからも私達にできることをしていきたいと感じました。ありがとうございました。



写真(3)(4)「みかんゼミ」の様子

事例3. 東京国立博物館でのインクルーシブ・プロジェクト

ミカンベイビーは障害分野に関する専門的知見や当事者ネットワークを活かし、短期的にも中長期的にも実際の現場を変えるための事業を大切にしています。

東京国立博物館(台東区)の「東洋館インクルーシブ・プロジェクト」でもプロジェクトを支援させていただきました。

国にとってかけがえのないミュージアムを真にインクルーシブで誰もが安心して文化財を楽しみ・学ぶことができる空間にするべく、当事者調査・コンサルティング・映像制作など、幅広く携わっています。

今後もノウハウや温かなネットワークを広げ、障害分野の研修やイベント提供、社会実装の実行・促進等を通じて、より豊かな共生社会の実現に強く寄与してまいります。



写真(5)「東洋館インクルーシブ・プロジェクト」の様子

企業・団体情報

企業名：ミカンベイビー合同会社

住所：東京都新宿区西新宿3丁目3番13号
西新宿水間ビル6階

事業概要：福祉コミュニティの運営

福祉及び障害に関する教育、啓発及び認知を目的としたワークショップ、セミナー、講演会等の各種イベント等

URL：<https://mikanbaby.jp/>

